

貝の化石びっしり 地層露出

瑞浪の市道工事現場 専門家ら調査へ

瑞浪市明世町の市道工事現場で2月、貝の化石が大量に含まれる地層が露出した。現場は県天然記念物「明世化石」の指定区域であることから、市化石博物館は9日から、地質学が専門の星博幸愛知教育大教授らと共同で地層を調査する。

博物館によると、この地層は約1800万年前の新生代に当たる瑞浪層群戸狩層。火山灰を多く含む砂岩の地層で、山を削った150区間から、浅く寒い海に生息してい

たとされるナカムラスダレハマグリやカワゲカガミガイなどが多数見つかった。

この地域からは1898年に、海岸付近に生息していたとされる哺乳類「デスモスチルス」の頭の骨が世界で初めて見つかったほか、2017年には瑞浪北中学校建設現場でクジラのほぼ全身の骨格が発見された。博物館の安藤佑介学芸員は「貝が多いところでは他の生き物の化石も多く発見される可能性が高い。今回の調査はまだ始まっ



「明世化石」で採取された貝の化石。白く見えるのが貝
瑞浪市明世町の化石博物館で

たばかりだが、何らかの成果が出るのでは」と期待する。

明世化石は1957年に県天然記念物に指定された。今回の市道工事は昨年11月から県の許可を得て始めた。71～73年の中央道瑞浪インターチェンジ建設の際にも、工事と並行して化石の調査が実施された。
(真子弘之助)